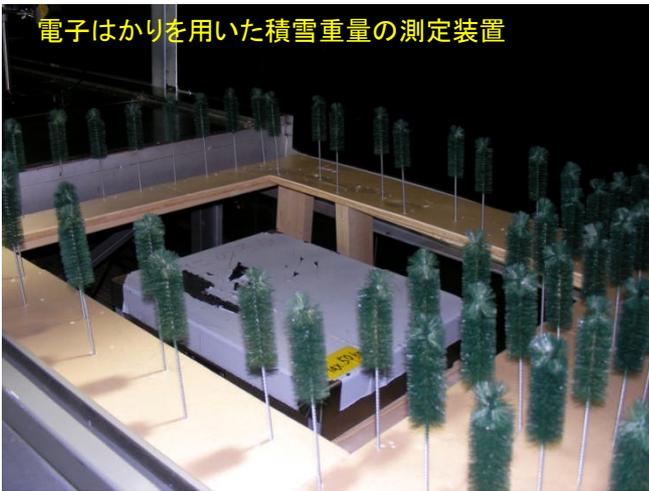
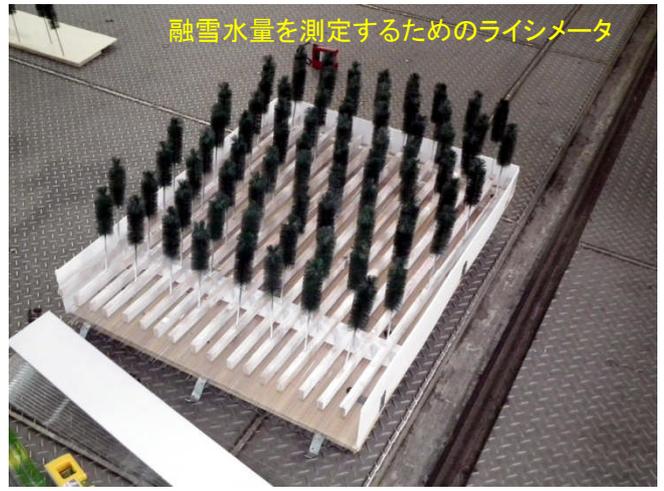


■ 樹木模型を用いた強風時の融雪実験 ■

風が吹くと急速に融雪が進行し、雪崩などの雪氷災害や融雪洪水などの水象災害、さらに地すべりなどの土砂災害を発生させます。ところが、数少ない現地観測の事例によれば、強風時には従来の予測以上に多量の雪が融けることが分かってきました。この原因を明らかにするため、今年は山地斜面に成立する森林の効果に着目し、(独)防災科学技術研究所と共同で樹木模型を用いた室内融雪実験を行いました。



電子はかりを用いた積雪重量の測定装置



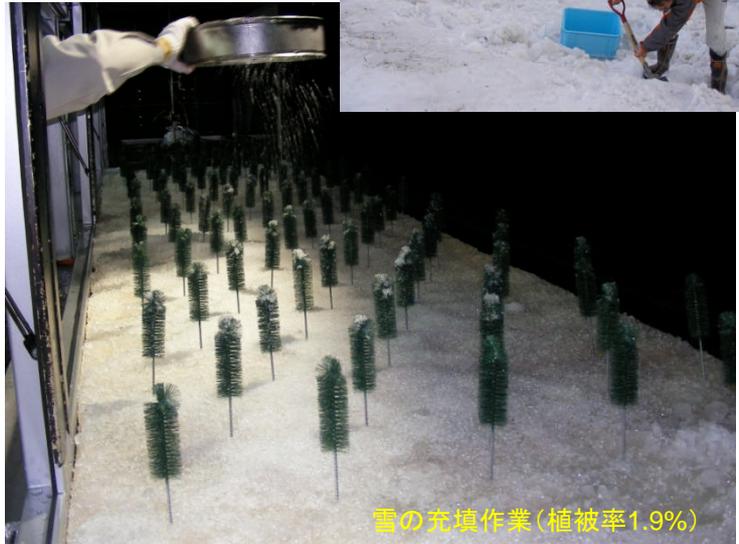
融雪水量を測定するためのライシメータ



雪の充填作業(植被率7.0%)



不足した雪の採取(月山)

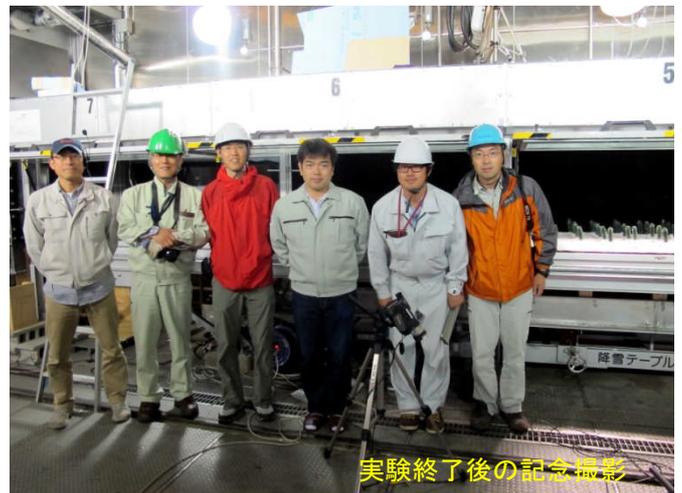


雪の充填作業(植被率1.9%)



熱線風速計による計測

実験は独立行政法人防災科学技術研究所雪氷防災センター新庄支所の施設を使用させていただきました。雪氷防災センターの阿部さん、上石さん、平島さん、小杉さん、望月さん、大川さんには多大なご協力と貴重な助言をいただきました。記して感謝いたします。



実験終了後の記念撮影